

作って持ち歩こう マイバッグ

参加者に配布している冊子。読みやすいと好評です。

マイバッグに対する関心が高まっていることもあり、MELON が実施するまいばっぐペイントが好評を得ています。講座の依頼の他にも、地域のイベントで実施するにあたり、どのように実施したらよいか教えてほしいと相談の電話もかかってきます。

7 月には仙台市が実施した「100 万人のごみ減量大作戦」キャンペーン企画「職場でもごみ減量～マイはし・マイバッグ・マイブーム！」の講師としてまいばっぐペイントを実施しました。このキャンペーンは、事業所を対象に楽しみながら従業員のごみ減量・リサイクル意識を高め、ごみの減量やリサイクルにつなげていく

ことを目的に行われたものです。大人だけを対象に実施したのは初めてでしたが、参加者はいきいきとバッグにペイントをしていました。最後にはうれしそうな笑顔で「大事に使います、ありがとうございます」と一人ひとり声をかけてくださいました。

講座やイベントでペイントしてもらったバッグの写真は、MELON の Web-Site 内「世界で 1 つだけのまいばっぐ展」で公開していますのでぜひご覧ください。



やさい



この間の台風でわが家のサクランボの樹が根もとからポッキリと倒れてしまいました。植えてから十数年たって、やっとザルひとつ収穫ができたというのに、それに気づかずにいたわたしの問題です。

レーナ・アンダション 作、やまのうち きよこ 訳「マーヤのやさいばたけ」(1996 年、富山房)にもサクランボの樹が出てきます。「さくらんぼは すずなりで いくらたべても なくならない」マーヤのサクランボのように、わたしもそんな日が来ることを夢見てたのです。

さて、本の中のマーヤの方は、春がきたらいろいろなやさいをつくろうと思っています。自然が大好きなマーヤはいろいろなやさいを作ります。はだして土の上へ。ビート(てんさい)、じゃがいも、ルバーブ、はつかだいこん……。友だちも招待し

てパーティですから。やさいづくりには季節があり、季節をまちわびる心があります。また、どんなものを食べようか、どんなものを食べさせようかと、自分とそしてほかの人たちへのつながりを考えていることにもなるのです。日本では消費されるやさいのおよそ 20 パーセント、果実はおよそ 60 パーセントもよその国から輸入されています。もし管理されていないとしたら残留農薬なども心配ですよ。人と人とのつながりがふっときえているからですね。

絵本はかならず最初から読まなければならないというわけではありません。あっちこち読んでみるのもいいものです。なんどもなんども読んでみるわけです。